

エマージング・マーケット レポート 9月号

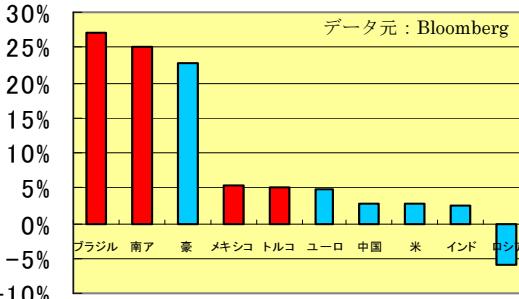


直近の動向

8月前半は7月に引き続き新興国通貨が上昇していた。第2四半期のGDP成長率がプラスとなり、数々の国々がリセッションの終焉あるいは脱出を宣言。しかし、日米欧では日本だけがプラス転換したことや、アジア株、特に中国株が調整色を強めたことによるリスク回避の動きから、月末にかけて円高となり、新興国各國の通貨も下落した。通貨では南ア・ランド、ブラジルレアルは年初から25%以上の上昇。ロシアはマイナス幅が拡大している。

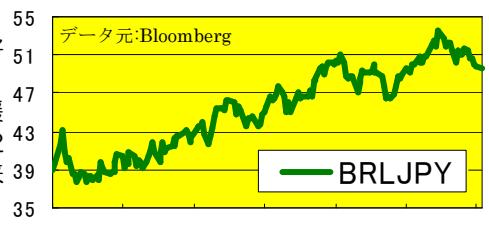
先月までのエマージング通貨の

年初来対円騰落率



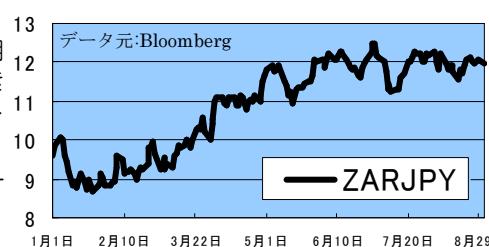
ブラジル

高金利、回復基調の資源輸出、安定した経済や株式市場の続伸などの好条件により、外資の流入が加速。特に対ドルで通貨の上昇が著しいが、通貨の上昇は輸出競争力の低下に繋がるため、中銀は13日レアル高緩和のため、ドル買い介入継続を表明。また失業率が低下、小売販売が2ヶ月連続上昇しているなど、底からの脱出は確かに思われる指標も。来年には過去数年のような持続成長の回復プロセスになると思われる。



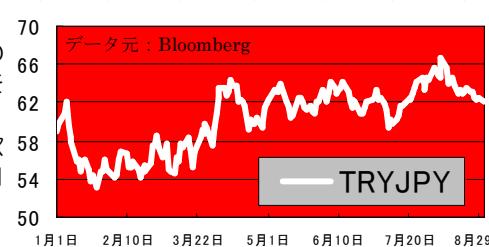
南アフリカ

13日に政策金利を7.0%に引下げた。09年4~6月の実質GDP前期比-3.0%となりマイナス幅が縮小。09年後半からの景気回復の動きがあるとされるが、そのスピードは緩やかになる見通し。多発するストライキの影響が懸念材料であるが、依然、相対的に高金利であるため、人気は高く通貨ランドの動きは安定している。株式市場は大幅続伸、4~8月で約20%の上昇。



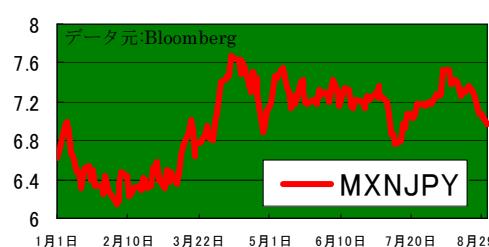
トルコ

18日に政策金利を過去最低の7.75%に引き下げた。高金利通貨への資金流入とドル安により通貨が大幅に上昇。主軸産業である輸出産業を圧迫。外貨準備増強とリラドル相場安定のため、中銀はドル買いを実施。IMFとの協定締結への期待が高まっていることや新たにロシアから欧洲への天然ガス輸送パイプライン建設設計画が合意されたことから注目度が高まっている。国内株式市場は年初から約72%と上昇率世界2位。



メキシコ

政策金利を4.50%に据え置き。09年4~6月の実質GDP成長率前年同期比は過去最悪水準の-10.3%。3四半期連続のマイナス成長。しかし、前期比では前期よりマイナス幅は縮小しており、今後さらに改善されていくと思われる。中南米諸国域内の他の諸国よりは景気回復のスピードが早いことから、年初来騰落率が中南米諸国で最低のメキシコ株の評価を上げているところも出ている。



為替レート見通し



| 対円 (JPY) | 09/09 | 09/12 | 10/03 | 10/09 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|
| 米ドル (USD) | 93 | 95 | 98 | 101 |
| ブラジルレアル (BRL) | 49 | 50 | 53 | 60 |
| 南ア・ランド (ZAR) | 11.7 | 12.0 | 12.8 | 13.5 |
| トルコリラ (TRY) | 61 | 63 | 65 | 70 |
| メキシコペソ (MXN) | 6.81 | 7.18 | 7.41 | 8.10 |

この資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的とした2009年9月2日現在の当社の意見になります。また、当社が信頼できると考える情報源から得たデータに基づき作成しておりますが、その情報の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。

商号等： ばんせい山丸証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 148号

加入協会： 日本証券業協会（会社コード0281）

社団法人 金融先物取引業協会（会員番号1088）

作成：ばんせい山丸証券

金融商品開発部 和田 大介